

# 「宿場町」大磯

さて、海水浴場も別荘もなかった頃の大磯は、どんなところだったのでしょうか。実は、海水浴場や別荘ができる前の江戸時代、大磯は東海道の宿場町



▲「東海道五十三次之内大磯」 広重画

として栄えていました。宿場町とは、その名のとおり宿泊施設である旅籠屋が集中して建てられ、多くの旅人が体を休め、駕籠の乗り換えや、馬などに積んだ荷物の付け替えを行った場所です。当時の移動方法は、徒歩、人が運ぶ駕籠、馬の3つの方法しかありません。

そのため、宿場町が必要でした。江戸幕府は、このような宿場町を街道の適当な間隔につくり、通行がスムーズにできるように整備したのです。

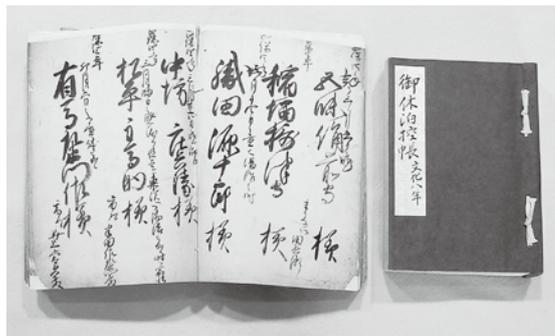
東海道は、江戸と京都という当時の2大都市を結ぶ幹線道路で通行量は多く、大磯にもさまざまな人が訪れました。中でも大々的なものは、將軍や大名などの権力者の通行で、何よりも優先され、本陣という専用の宿泊施設もありました。

大磯宿にはこの本陣が3軒ありました。小島本陣、石井本陣、尾上本陣です。石井本陣は現在のの内館、尾上本陣は現在の中南信用金庫本店、小島本陣は尾上本陣の隣(NTT大磯センター1辺り)に位置していました。現在はいずれも当時の建物はありませんが、小島本陣については、唯一、関係の古文書が伝わり、郷土資料館で保管しています。

小島本陣は、いつ、だれが宿



▲小島本陣旧跡石碑



▲小島本陣で記された休泊帳

泊したか、宿泊者の情報を記録した休泊帳をつくりました。この記録を読むとさまざまな大名が、大磯に滞在したことがわかります。また、休泊帳には記録されていますが、江戸時代末期には14代將軍家茂が、明治時代になり京都から江戸へ都が移ったときには明治天皇が、小島本陣に宿泊しました。江戸時代から明治時代にかけて

て、さまざまな人が訪れ、過ごした大磯。その想いを探しに、この夏は地元大磯にも目を向けてみてはいかがでしょうか。

◎問い合わせ 郷土資料館  
☎(61) 4700

『夏季企画展「東海道大磯宿  
—小島本陣資料を読み解く—』

郷土資料館で所蔵している  
**小島本陣資料を  
展示中!!**

郷土資料館が所蔵する小島本陣資料は、江戸時代の大磯宿の様子を伝える貴重な資料です。本展では小島本陣資料を中心に、当時の大磯宿の様子を紹介します。

▼とき 7月21日(土)～9月9日(日)

▼ところ 郷土資料館企画展示室

▼休館日 毎週月曜日、毎月1日(館内整理日)

▼入館料 無料

夏休み期間中の開催です。大磯の歴史を感じに、ぜひお越しください。